

喜多方の清水復活を

産学官民の研究スタート

も 報
に 中
月 来

「喜多方の清水を復活させよう」。酒、ラーメン、米など水を生かした産業が根付く喜多方市で、わき水を復活させようという試みが始まった。会津喜多方商工会議所の会員が中心となって「きたかた清水再生プロジェクト実行委員会」を組織。県の超学際的課題研究事業の一つとして産学官民が一体となって研究を進める。

研究では、行政区長らに聞き取り調査を実施。わき水の現状を示した地図を作り、わき水に関する講座も開く。地下水に詳しい福島大共生システム理工学類の柴崎直明教授らが文献やデータを精査し、わき水のかれた原因を探る。最終的には街づくりの指針としての報告する。

役所のある「御清水」や「桜清水」などわき水を表す地名が古くからあり、約三十年前までは公園や神社などでわき水が出ていたという。しかし、近年市街地の拡大や冬場の消雪用水の使用量の増大からか、わき水の出る地点は年々減少。平成元年に市が行った聞き取りと実地の調査では約七十カ所のわき水地点があった一方、約四

十カ所がかれたり、埋没したりしていた。人を務める唐橋幸市郎会津喜多方商工会議所会頭は「最終的には昔のように水とともにある街を復活させたい」と期待している。

旧喜多方市街では、市